

友松会だより

第9回 横浜国立大ホームカミングデー

平成 26 年 10 月 25 日 (土曜日) 10:00~16:00
会 場 国大常盤台キャンパス

メイン講演「リングが教室」

～ボクシングを通じた人間教育を目指して～
元東洋太平洋バンタム級チャンピオン

新田 涉世 氏

横浜国立大学教育学部卒業(平4年)



小学6年生の時に読んだ、漫画「あしたのジョー」の主人公にあこがれ、25年間、真剣にボクシングに取り組んできた。

選手時代は、タイトル戦に3度挑戦するが、すべて失敗した。

(練習+減量+肉体的・精神的・経済的恐怖)×数ヶ月の繰り返しの中で、ある日、天から言葉が降ってきた。『負けに負けるな』である。この言葉を支えとして、国立大学出身初のチャンピオンになることができた。

引退後に渡米。「ボクシングには、人を変える力がある」と確信した。

2003年に川崎市多摩区に、念願のボクシングジムを開設した。

門下生を育てる傍ら、いじめ・暴力追放アドバイザー10校ほどの学校で講演をしている。

(最後に、プロの片桐秋彦選手と黒田雅之選手によるスパークリングが披露された。)

平成 26 年度 HCD 報告号
2013. 11. 11 発行
発行責任者 会長 芦川 弘



講演が終わって学長・会長・委員長と

第21回 豊かな教育を語る会



芦川会長挨拶



会場の様子

・芦川会長あいさつ 昨年・一昨年と雨にたたられましたが、本日はよい天気恵まれました。

教育界は依然としていじめ・不登校があります。学校では団塊の世代の方が大量にやめられ、若い世代の方が多くなりました。私たちOBはその辺を支援していきたいと思います。家庭教育・学校教育・地域社会教育の3つがバランス良く行われれば心豊かな子どもたちが出来ると思います。本日のお二人の提案を期待しております。

研究発表①

「地域の教育力を生かした魅力ある授業づくり」

川崎市立新城小学校 上関 哲士 総括教諭

地域の教育力は、素材であり人材であり、大切な学校の財産である。川崎市は10年というくくりの周年事業の一つとして、地域学習のための副読本づくりを行っている小学校が多い。私自身4校目の地域学習副読本の編集に携わってきた。子どもたちが「追求したい」という気持ちになるものを作成しています。副読本の作成とともに、地域

素材や人材を活用した授業研究を行いました。子どもたちが地域を魅力的に感じる一助になることを願っています。

研究発表②

『自らかかわり』『考えを深め合う』子どもの姿を求めて

横浜市立三ツ沢小学校 本田 響 主幹教諭

三ツ沢のまちは、多くの自然を見つけることができ、動植物の観察をしている。まちでは魅力的な人が働いていたり、公園やお店が存在したりしている。その中で子どもたちは素直に驚き、記録する姿が見られる。一方、自分から疑問をもって追求し確認し合うことがあまり見られない。そこで「自らかかわり」「考えを深め合う」子どもの姿を求めて～体験学習と言語学習が充実する単元づくりと授業づくり～を研究テーマと設定した。



司会 三浦 和弘氏 (44 年卒)

指導講評

- 横浜国立大学人間科学部
- 西脇 保幸教授 (社会科教育)
- 森本 信也教授 (理科教育)

【研究の詳細は「友松」105号に掲載されます】

「友松」の変遷

2001年(91号) 2014年(104号) までを展示



グリークラブOBコンサート



オペラ合唱曲「鍛冶屋の合唱」等 10 数曲を披露

キャンパスめぐり (様々な催し物が)



ホームカミングデー「交流会」14:00～

開会の挨拶 鈴木邦雄学長



14時から始まった「交流会」のオープニングセレモニーでは、鈴木邦雄学長、山本恵一HCD 実行委員長とともに、挨拶の中で午前中行われた「校友

鈴木学長挨拶

会」の立ち上げの発起人会と総会の件に触れました。そして、来年からこのホームカミングデーは校友会が行うことになり、学生の方々も現職の先生方も参加されると話されました。



ショータイムでは、山本委員長挨拶 BaySound Jazz Orchestra の演奏が会場を盛り上げました。

最後に学生歌「みはるかす」を全員で歌い、16:00にはお開きになりました。

懇親会の様子

